

研究科長 殿

審査報告書

論文審査要綱第4条に基づき、下記のとおり報告します。

(報告年月日) (西暦) 2024年 8月 20日

論文 受理番号	D2024-301	学域	作業療法科 学域	申請者 氏名	山田 優樹
試験担当者	主査 _____ 小林 法一 _____ 印 副査1 _____ 谷村 厚子 _____ 印 副査2 _____ 石橋 裕 _____ 印				
<p>(1) 学位論文の内容の要旨 別添のとおり (別紙様式3)</p> <p>(2) 学位論文の審査及び最終試験の結果の要旨</p> <p>1. 学位論文タイトル Verification and Comparison of the Occupational Balance Model and Work-Life Balance Model in the Mental Health of General Workers</p> <p>2. 審査所見</p> <p>1) 論文審査</p> <p>国際的に日本は労働時間の長い国とされており、労働者の82%が強いストレス状態にあるとの報告もある。現在、国民の労働時間は徐々に短縮傾向にあるとされるが、過労死やメンタルヘルスの不調による休職は逆に増加している。勤労者の精神的健康を守るためとしてワーク・ライフバランス(WLB)の充実が折々に喧伝されているものの、その具体策は示されず、企業の打つ対策はストレスチェックが主流である。本博士論文はこうした社会的課題に対し、作業療法学の中核的概念の一つである作業バランスの観点からアプローチを試みるものであり、社会的意義は深くオリジナリティーも高い内容といえる。</p> <p>副論文①は、これまで比較的多くの専門家からの支持を得ている「勤労者の健康障害プロセスモデル(WLBの乱れが心理的ストレス反応を生じさせ、健康を害するとするモデル)」に作業療法学の概念(作業有能性)を統合したモデルを仮説として設定し、この構造モデルを検証している。作業療法士310名のデータを回収し分析し</p>					

※欄が不足の場合は、二枚目に欄を増やしてご記入ください。

た結果は CFI=.924, TLI=.918, RMSEA=.065 と基準を上回るモデルの適合を示すものであった。これは WLB の乱れに伴う労働者の健康問題に作業療法の観点が発立つ可能性を示唆するものであり、特にこの点において価値ある論文である。

副論文②は、作業バランス尺度の日本語版 (OBQ-J) の開発を目的とするものであった。作業バランスとは人の日常生活を構成する作業 (生活行為) に見られるある種のバランスであり、ワーク・ライフバランスの概念とも似た概念である。作業バランスを数量的に評価する手法はいくつか存在するが、日本人を対象とした疫学調査に利用できる尺度が未整備であり、学術的課題であった。本論文はこの課題の解決に資する点が高く評価できる。

主論文では、従来の WLB を起点とする勤労者の健康障害プロセスモデルと、新たに想定した作業バランス (OB) を起点とするモデルの比較が行われている。サンプリングの対象は一般労働者 320 名であった。結果は従来モデルに比べて OB を起点とする新たなモデルの方が、勤労者の精神的健康への強い影響を示していた。この結果は OB の改善が健康に寄与する可能性を示唆するものであり、本論文は勤労者の精神的健康という社会的課題に対し作業バランスという新たなアプローチの観点を示した優れた内容である。

2) 最終試験

最終試験においては、広く多様な作業バランス概念における OBQ-J 尺度の位置づけや尺度の特性、想定母集団、仮説とした検証モデルの設定根拠、臨床活用する際の課題、準拠した報告ガイドラインの詳細などについての質問があり、申請者はこれに適切に回答した。開発した尺度の実装においては、誤った解釈によるデメリットの発生可能性を真摯に認めた上で、それらに対応するための具体策を述べるなどの確に回答した。プレゼンテーションおよびコミュニケーション能力は十分であり、当該専門領域の見識については高い水準にあると判断された。今後の研究意欲も認められ、誠実な態度も好印象であった。

3. 審査結果

本論文が博士学位論文に値し、申請者が博士の学位を授与されるに相応しいことを認め、合格と判断した。